

別紙_（仮称）群馬県水素ビジョン（案）に関する意見募集結果

NO	該当ページ	意見（要旨）	意見に対する考え方	修正の有無	修正前	修正後
1	7	「将来的には海外で製造された低炭素水素等が供給されると考えられるが、長距離輸送が必要であり輸送コストが高額であることから、内陸県である本県での利用は不利な状況にある。」と記載があるが、製造原価比較無しに仕上がりコストが不利かどうかはわからないため、記載表現を検討されたい。	原案の記載の趣旨は、県内での水素製造と比較して県外からの水素移入が不利ということではなく、県外からの水素移入において沿岸県と比べて内陸県が不利であるということになります。趣旨を明確にすべく、ご意見を踏まえ右記のとおり修正します。	有	長距離輸送が必要であり輸送コストが高額であることから、内陸県である本県での利用は不利な状況にある。	長距離輸送が必要であり輸送コストが高額であることから、 沿岸県と比べて 内陸県である本県での利用は不利な状況にある。
2	7	群馬県で製造された水素を多くの地域に輸送する事を考えれば、交通の結節点である群馬県には 今後のエネルギー供給拠点として発展する可能性を秘めていると考える。	水素の供給について、今後の技術動向・社会情勢を注視し、今後の施策を検討してまいります。	無		
3	10	マイルストーンについて、「利用面では水素等の色に拘らず利用設備の実証・実装を推進する」との記載があり感銘を受けた。 ぜひ利用機会を増やす後押しをするための予算取りを早期にお願いしたい。 また、利用設備としてFCFL（燃料電池フォークリフト）の記載がないため、追加を検討されたい。	本ビジョンに基づく予算確保については、今後の技術動向・社会情勢等を踏まえ、柔軟に検討してまいります。 また、FCFLの追加については、ご意見を踏まえ右記のとおり修正します。	有	利用設備	利用設備・ 機器
4	11	水素の貯蔵、運搬全般に関して、水素高圧タンクを前提としているが、水素吸蔵合金による貯蔵運搬は検討しなかったか。 ニッケル水素電池に使われている合金で水素を吸収・放出するもの。パイプラインの供給には耐えきれないかもしれないが、自然エネルギーを利用した発電では発電率が季節で変化するため。その際に安定貯蔵できるだけでも水素利用で安定供給が可能になるのではと思う。 複数の手段があると、自然災害や色んな事象で安全弁の役割ができるかと思うが、如何か。	水素の貯蔵運搬については、高圧タンクに限定せず、今後の技術動向・商用化の状況を注視し、最適な手段を検討してまいります。 また、ご意見を踏まえ右記のとおり修正します。	有	水素貯蔵 タンク	水素貯蔵 設備
5	12.21	ロードマップについて、2026年から10年間の大まかな予定を記載しているが、直近ですぐに対応したいこと、中長期で対応したいことをもう少し具体的に記載いただけると実施業者としても本気度をくみ取ることができると考える。	本ビジョンに基づく具体的な取組については、今後の技術動向・社会情勢等を踏まえ、柔軟に検討してまいります。	無		
6	15	自治体や民間事業者の連携により水素利用を拡大すると書かれているが、現状では自動車販売店においては、水素供給体制が整っている地域でしか燃料電池車(事実上「水素車」)を取り扱っていない。県内企業が購入しやすくするには、県内販売店に取り扱ってもらえる必要があると思われるが、取り扱いを始めるとなると、販売店側にとっても十分な水素供給体制が整っているかの確認、販路の確保、展示車の維持等でコストがかかってしまうと思われる。販売店側への支援は行う予定があるか。	現時点ではありませんが、本ビジョンに基づく具体的な取組の御提案として、今後の施策検討の参考とさせていただきます。 まずは、運送事業者向けの需要喚起及び大規模水素ステーションの誘致検討を進めてまいります。	無		
7	17	温泉水利用水素製造等の提言が出来るか検討されたい。この中には、群馬の持つ自然エネルギー(温泉・森林等)の有効利用が欠如していると思われる。群馬県に有る自然エネルギーの利用については一切触れられていない。	水素の製造方法については、今後の技術動向・商用化の状況を注視し、最適な手段を検討してまいります。	無		
8	その他	水素ステーションは設備投資が大きい一方、水素利用が主にFCVIに限られるため採算が取りにくく、補助終了後に撤退する例も多い。ガソリンスタンドなど既存インフラと異なり、ランニングコストの不透明さも導入の障壁となっている。実績の乏しい新分野だからこそ、柔軟で実態に即した補助制度を設計し、身近で多様な需要に対応できる環境整備が不可欠であると考えます。	本ビジョンに基づく具体的な取組の御提案として、今後の施策検討の参考とさせていただきます。	無		
9	その他	CNの推進を前向きな対応が必要と考えるうえで、新燃料の社会実装・進捗に合わせながら、水素キャリアの搬入・保管・供給においては既存施設の利活用が検討できるものと考えます。 そのうちの一つとして、メチルシクロヘキサン(MCH)を用いることで、貨車や貯蔵施設など既存の石油製品インフラが利活用でき、導入容易性も有しているものと考えます。 また常温、常圧の液体であることからエネルギーとしての長期保管にも対応できるものと考えます。	水素キャリアについては、今後の技術動向・商用化の状況を注視し、最適な手段を検討してまいります。	無		